

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	31-1	
PDCA	主要事業名	音楽のあるまちづくり事業	部課名	教育部生涯学習課	担当	邑上						
					内線	23-7341						
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と伝承											
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 11,682 千円											
	会計		一般会計		歳出科目： 09.05.01.05.50							
	事業概要等	事業概要： 令和2年8月26日付で公益社団法人セントラル愛知交響楽団と締結した「半田市音楽文化振興に関する協定」に基づく事業を始め、音楽のあるまちづくりを推進するための各種音楽関連事業を実施する。										
		事業目的： 新たな音楽文化の創造や醸成を促し、ひとづくりやまちづくりに繋げていくとともに、心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現に寄与する。										
		事業内容： セントラル愛知との協定事業（公演事業、小・中・幼・保等でのアウトリーチ・ワークショップ等）の他、多種多様なジャンルの公演等を実施する。										
		問題点・課題等： 長期的に継続しなければ効果がはかりにくい事業ではあるが、事業を継続するとともにその効果を把握するよう努める必要がある。										
	予算額	主要事業とする理由										
	11,682 千円	市民への質の高い音楽文化の提供を通じて、心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現を目指すため。										
	財源内訳	得られる成果										
	市費	新たな音楽文化の創造や醸成が促され、ひとづくりやまちづくりにつながり、心豊かな市民生活と活力ある地域社会が実現する。										
	7,746 千円											
	国費											
0 千円												
県費												
0 千円												
その他												
3,936 千円												
D 実績値	決算額	得られた成果										
	11,696 千円	認知度、満足度ともに目標値を下回る結果となったが、例年以上に、ターゲットに合わせた音楽イベントを企画・実施したことで新たな層へ働きかけることができた。コンサートを中心に集客が増加し、より多くの人たちに音楽文化に触れてもらう機会を創出することができた。										
	成果指標				令和6年度		単位					
	音楽のあるまちづくり事業の認知度				実績値		59.0		%			
					目標値		80.0		%			
	音楽のあるまちづくり事業の満足度				実績値		73.4		%			
					目標値		90.0		%			
	C 課題の整理	事業の評価・課題	B 半田市文化芸術推進計画の基本目標である「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」を特に意識して、「アニマルコンサート」や「畳でコンサート」の開催など、未就学児を含めた親子で参加できるイベントを拡充した。また、初開催となった「第1回音楽マルシェ」が象徴するように、鑑賞だけではなく体験の要素を各イベントに多く取り込んでいくことで、音楽文化を全身で体感できる機会を増やすことができた。既述の「音楽マルシェ」に至っては、3,000人以上の集客があり、その他集客増となったコンサートも含めて、例年以上に、より多くの人たちに音楽文化に触れてもらう機会を創出することができた。なお、成果指標である「音楽のあるまちづくり事業の認知度」については、新たな層の掘り起こしや大型イベントにおける市外参加者の増加によって相対的に下がることはやむを得ないと判断しているが、「音楽のあるまちづくり事業の満足度」の低下については改善が必要なため、イベント毎に実施しているアンケートの内容を精査するなどして、対策を講じていく必要がある。									
	A 課題解決に向けた今後の方向	今後の事業の方向性	改善推進 引き続き、鑑賞だけではなく体験の要素を取り入れたイベントを数多く実施し、本市の進める音楽のあるまちづくりを体感できるような取組みを継続していく。また、新たな層の掘り起こしを含め、より多くの市民にセントラル愛知交響楽団による良質な音楽を聞いてもらうことができるよう、一般市民のニーズを捉えた企画・選曲に努めるとともに、地域に出向いてコンサートを開催するなどし、市民が気軽に同楽団の音楽に触れてもらう機会を創出していく。併せて、同楽団だけでなく、市内音楽関係者等とも連携を図り、市民が活躍できる場を創出しつつ、草の根的に音楽文化が広がっていくような取組みを進めていく。									
		観点別評価	必要性		有効性				効率性			
			①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 大きい				⑦コスト削減 ない			
②市民ニーズ 高い			⑤成果向上の余地 ある				⑧減余地 ※対象・手段の変更					
		③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない				⑧受益者負担適正化余地 ない				
評価項目（決算時に作成）												
主要施策の成果報告書で活用												
目標項目（予算計上時に作成）												

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	31-2
PDCA	主要事業名		文化芸術普及推進事業		部課名		教育部生涯学習課			担当	邑上
										内線	23-7341

P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と伝承										
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 5,962 千円										
	会計		一般会計				歳出科目： 09.05.01.05.51				
	事業概要等		事業概要： 市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくったり、親しみをより深めてもらったりすることを目的に、まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ体験や鑑賞ができる事業を実施する。また、そういった文化芸術に関する情報を確実に届ける仕組みを構築する。								
			事業目的： 文化による多様な価値観の形成と地域の包括的環境の推進による文化芸術の社会的価値の醸成を図る。								
			事業内容： まちなかでアート、半田市美術展、親子観劇会等各種公演の実施、文化活動全国大会等出場激励金支給、半田市文化協会事業費補助などを実施する。								
			問題点・課題等： 長期的に事業を継続しなければ効果がはかりにくい事業ではあるが、事業を継続するとともにその効果を把握するよう努める必要がある。								
	予算額		主要事業とする理由								
	5,962 千円		市民が文化芸術に触れ親しめる機会を提供することを通じて、心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現を目指すため。								
	財源内訳		得られる成果								
市費 3,968 千円		人々の創造性を育み表現力を高め、多様性を受け入れて相互に理解し尊重し合うといった心豊かな地域社会が実現する。									
国費 232 千円		目標値や目指すべき状態				令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位		
県費 0 千円		鑑賞・体験事業の満足度		実績値		93.7	84.7	-	%		
目標値				85.0	85.0	90.0	%				
その他 1,762 千円				実績値							
				目標値							

D 実績値 得られた成果と	決算額		得られた成果						
	5,802 千円		満足度は目標値を下回る結果となったが、新たな切口による取組み（子どものうちから文化芸術に触れられる機会の創出、鑑賞型ではない体験型イベントへのシフト、まちなかで気軽に文化芸術を体感できる機会の創出など）が着実に前進しており、より多くの人たちに芸術文化に触れてもらう機会を創出することができた。						
			成果指標				令和6年度	単位	
			鑑賞・体験事業の満足度		実績値		80.9	%	
					目標値		90.0	%	

C 課題の整理	事業の評価・課題		B 瀧上工業雁宿ホールなど拠点施設での公演を中心とした文化芸術事業の展開から、市民がより身近に文化芸術を感じられるよう、“まちなか”でのパフォーマンスやワークショップを行う取組みに転換を図っている。取り分け令和6年度は、「アール・ブリュット展」をサテライト会場（市内2か所の喫茶店）で実施するなど、新たな取組みも始めている。鑑賞型から体験型への講座・イベントへシフトするとともに、他のイベントとの抱き合わせ実施による相乗効果も生まれ、「誰でも」「いつでも」「どこでも」、そして気軽に文化芸術に触れられる機会が拡充している。一方、新たな切口による取組みが前進しているものの、成果指標である「鑑賞・体験事業の満足度」が低下しているため、イベント毎に実施するアンケートの内容を精査するなどして、対策を講じていく必要がある。						

A 課題解決に向けた今後の方向性	今後の事業の方向性		改善推進 より多くの市民に文化芸術に触れてもらう機会を増やしていけるよう、原点に立ち返り、改めて既存のイベントにおける集客に注力していくとともに、上記のとおり、新たな切口による取組みも同時並行で進め、新たな層へのアプローチを図っていく。また、文化芸術に触れられるきっかけづくりの取組みは進みつつあるので、次の段階として、「その活動をやってみたい、続けてみたい」と思う市民ニーズに応えるための場や機会の創出も検討していく必要がある。						
	観点別評価		必要性		有効性		効率性		
			①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 大きい		⑦コスト削減余地 ない		
			②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地 ある		⑧受益者負担適正化余地 ※対象・手段の変更		
			③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない		⑧受益者負担適正化余地 ない		

目標項目（予算計上時に作成）											
予算見積書で活用											
評価項目（決算時に作成）											
主要施策の成果報告書で活用											

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	31-3	
PDCA	主要事業名	成岩公民館改築等事業	部課名	教育部生涯学習課		担当 内線	酒井 23-7341	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進						目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 9 年度 全体事業費等： 490,002 千円							
	会計 一般会計 歳出科目： 09.05.02.04.52							
	事業概要等	事業概要： 地域における様々な問題を解決していくためには、地域住民の交流促進によるコミュニティの構築と活性化が重要である。本市が目指す小学校区コミュニティ構築に向け、老朽化した成岩公民館（昭和41年度に建設後、50年以上経過）にかわり、成岩小学校敷地内に、地域住民の交流施設を建設する。						
		事業目的： 地域住民の交流施設を建設し、地域住民の交流・活動を推進する。						
		事業内容： 小学校区コミュニティ構築に向け、老朽化した成岩公民館にかわり、成岩小学校敷地内に地域住民の交流施設を建設する。						
		問題点・課題等： 地域と協議し、理解を得ながら建設を進めていく。						
	予算額	主要事業とする理由						
	99,750 千円	地域住民の交流施設を建設し、地域住民の交流促進によるコミュニティの構築と活性化を図ることが、地域における様々な問題の解決につながるため。						
	財源内訳	得られる成果						
市費 99,750 千円 国費 0 千円 県費 0 千円 その他 0 千円	地域住民の交流が促進され、コミュニティや市民活動、生涯学習活動が活性化される。							
目標値や目指すべき状態								
地域住民の交流を促進する新施設を予定どおり建設する。								
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果					主要施策の成果報告書で活用	
	95,015 千円	市民協働課と連携して、公民館にかわる小学校敷地内への「地域交流施設（仮称）」の設置に取り組んでいる。成岩小学校区の住民と、新施設の具体的な使い方や間取り、管理運営のあり方について、活発に話し合うとともに、開館に向けて、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議する準備会を開催した。また、新施設の建設に向けて、地域住民の意見を反映した基本・実施設計、成岩小学校プール解体工事及び擁壁設置工事等を実施することができた。						
		成果指標						
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 小学校区コミュニティの構築に向けて、地域の関係者が地域課題を話し合う場「なる小地区 地域の未来ミーティング」（令和6年度：計3回）を市民協働課と連携して開催した。地域の未来ミーティングにおいては、地域交流施設の具体的な使い方や間取り、供用開始後の管理運営のあり方について、活発な意見交換を行い、地域における意識醸成を図ることができた。また、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議する準備会を設立・開催し、供用開始に向けた具体的な取組みに着手した。地域住民の意見を反映した基本・実施設計、成岩小学校プール解体工事、擁壁設置工事及び現況調査測量等を実施し、新施設の建設工事に向けた準備をすることができた。						
	今後の事業の方向性	改善推進 公民館において活動する社会教育関係団体が、地域交流施設において活動することを想定した検討を行う。 市民協働課との連携による準備会の継続的な開催により、開館に向けて、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議していく。						
A 課題の解決に向けた	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地	※対象・手段の変更			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ない	⑧受益者負担適正化余地	ない			
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない					

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	31-4			
PDCA	主要事業名		福祉文化会館更新事業		部課名	教育部生涯学習課		担当 内線	佐藤 23-7331	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と継承								目標項目（予算計上時に作成）	
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 11 年度 全体事業費等： 2,888,766 千円									
	会計		一般会計		歳出科目： 09.05.06.02.50					
	事業概要等	事業概要： 半田市福祉文化会館は、昭和63年に開館後、築30年以上が経過し、施設や設備の老朽化が著しいため、大規模改修を実施し、施設の長寿命化を図る。大規模改修の実施にあたっては、PPP/PFIの事業手法を検討する。								
		事業目的： 福祉・生涯学習・文化活動の拠点施設として、市民が安全・快適に利用できるよう、大規模改修を実施する。								
		事業内容： 半田市福祉文化会館の老朽化に伴い、大規模改修工事を計画的に実施する。								
		問題点・課題等： 大規模改修工事期間中においては、施設を利用できない期間が生じる。								
	予算額	主要事業とする理由								
	36,080 千円	施設の老朽化が課題となっている福祉文化会館が、大規模改修を行うことにより、安全・快適な施設となるため。								
	財源内訳	得られる成果								
市費 36,080 千円	施設の安全性と機能性、利便性が向上することにより、利用が促進され、市民の文化・芸術に触れられる機会が増加する。									
国費 0 千円	目標値や目指すべき状態									
県費 0 千円										
その他 0 千円	安全・快適に利用できる施設に予定どおり改修する。									
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果							主要施策の成果報告書で活用	評価項目（決算時に作成）
	15,620 千円	「半田市福祉文化会館長寿命化計画」に基づき、大規模改修（長寿命化）に向けて、施設の現況調査を実施した結果、必要最低限の改修を行う場合でも多額の費用が必要となることが判明した。大規模改修の他に、多様な選択肢を検討し、施設のあり方を再考するきっかけとなった。								
		成果指標								
		安全・快適に利用できる施設に予定どおり改修する。								
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 令和5年度に行った図書館・博物館の現況調査結果と併せて、単に現状の社会教育施設の機能を維持するという視点に留まらず、まちづくりにおける施設の役割や時代に合った施設の形態・機能の構築について検討する必要性を認識した。そのため、福祉文化会館の大規模改修を一旦凍結し、長寿命化計画に基づく大規模改修を行うか、現在地で図書館・博物館を含めた複合施設として建替えを行うか等の検討を、教育部を中心に行っていくこととした。								
	今後の事業の方向性	統廃合等 知多半田駅周辺における新たな事業の検討が本格的に開始されてきたことに伴い、当施設がさまざまな影響を受けることが予想される。事業計画が具体的になるまでは、現在地で建替えるか否かについて判断が下せないため、当面の間は現在地での建替えは行わず、長寿命化計画を一旦中断し、予防保全を含めた必要最小限の改修を行っていく。								
A 課題の解決に向けた今後	観点別評価	6		有効性		効率性				
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある			
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更				
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ある			

令和7年度(令和6年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部生涯学習課

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
31-1	音楽のあるまちづくり事業	B	半田市文化芸術推進計画の基本目標である「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」を特に意識して、「アニマルコンサート」や「畳でコンサート」の開催など、未就学児を含めた親子で参加できるイベントを拡充した。また、初開催となった「第1回音楽マルシェ」が象徴するように、鑑賞だけではなく体験の要素を各イベントに多く取り込んでいくことで、音楽文化を全身で体感できる機会を増やすことができた。既述の「音楽マルシェ」に至っては、3,000人以上の集客があり、その他集客増となったコンサートも含めて、例年以上に、より多くの人たちに音楽文化に触れてもらう機会を創出することができた。なお、成果指標である「音楽のあるまちづくり事業の認知度」については、新たな層の掘り起こしや大型イベントにおける市外参加者の増加によって相対的に下がることはやむを得ないと判断しているが、「音楽のあるまちづくり事業の満足度」の低下については改善が必要なため、イベント毎に実施しているアンケートの内容を精査するなどして、対策を講じていく必要がある。	改善推進	引き続き、鑑賞だけではなく体験の要素を取り入れたイベントを数多く実施し、本市の進める音楽のあるまちづくりを体感できるような取組みを継続していく。また、新たな層の掘り起こしを含め、より多くの市民にセントラル愛知交響楽団による良質な音楽を聞いてもらうことができるよう、一般市民のニーズを捉えた企画・選曲に努めるとともに、地域に向いてコンサートを開催するなどし、市民が気軽に同楽団の音楽に触れてもらう機会を創出していく。併せて、同楽団だけでなく、市内音楽関係者等とも連携を図り、市民が活躍できる場を創出しつつ、草の根的に音楽文化が広がっていくような取組みを進めていく。
31-2	文化芸術普及推進事業	B	瀧上工業雇用ホールなど拠点施設での公演を中心とした文化芸術事業の展開から、市民がより身近に文化芸術を感じられるよう、“まちなか”でのパフォーマンスやワークショップを行う取組みに転換を図っている。取り分け令和6年度は、「アール・ブリュット展」をサテライト会場（市内2か所の喫茶店）で実施するなど、新たな取組みも始めている。鑑賞型から体験型への講座・イベントへシフトするとともに、他のイベントとの抱き合わせ実施による相乗効果も生まれ、「誰でも」「いつでも」「どこでも」、そして気軽に文化芸術に触れられる機会が拡充している。一方、新たな切口による取組みが前進しているものの、成果指標である「鑑賞・体験事業の満足度」が低下しているため、イベント毎に実施するアンケートの内容を精査するなどして、対策を講じていく必要がある。	改善推進	より多くの市民に文化芸術に触れてもらう機会を増やしていけるよう、原点に立ち返り、改めて既存のイベントにおける集客に注力していくとともに、上記のとおり、新たな切口による取組みも同時並行で進め、新たな層へのアプローチを図っていく。また、文化芸術に触れられるきっかけづくりの取組みは進みつつあるので、次の段階として、「その活動をやってみたい、続けてみたい」という市民ニーズに応えるための場や機会の創出も検討していく必要がある。

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
31-3	成岩公民館改築等事業	B	小学校区コミュニティの構築に向けて、地域の関係者が地域課題を話し合う場「なる小地区 地域の未来ミーティング」（令和6年度：計3回）を市民協働課と連携して開催した。地域の未来ミーティングにおいては、地域交流施設の具体的な使い方や間取り、供用開始後の管理運営のあり方について、活発な意見交換を行い、地域における意識醸成を図ることができた。また、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議する準備会を設立・開催し、供用開始に向けた具体的な取組みに着手した。地域住民の意見を反映した基本・実施設計、成岩小学校プール解体工事、擁壁設置工事及び現況調査測量等を実施し、新施設の建設工事に向けた準備をすることができた。	改善推進	公民館において活動する社会教育関係団体が、地域交流施設において活動することを想定した検討を行う。市民協働課との連携による準備会の継続的な開催により、開館に向けて、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議していく。
31-4	福祉文化会館更新事業	C	令和5年度に行った図書館・博物館の現況調査結果と併せて、単に現状の社会教育施設の機能を維持するという視点に留まらず、まちづくりにおける施設の役割や時代に合った施設の形態・機能の構築について検討する必要性を認識した。そのため、福祉文化会館の大規模改修を一旦凍結し、長寿命化計画に基づく大規模改修を行うか、現在地で図書館・博物館を含めた複合施設として建替えを行うか等の検討を、教育部を中心に行っていくこととした。	統廃合等	知多半田駅周辺における新たな事業の検討が本格的に開始されてきたことに伴い、当施設がさまざまな影響を受けることが予想される。事業計画が具体的になるまでは、現在地で建替えるか否かについて判断が下せないため、当面の間は現在地での建替えは行わず、長寿命化計画を一旦中断し、予防保全を含めた必要最小限の改修を行っていく。
課等長	1次評価（令和6年度の総括評価）				
B	音楽事業も含めた文化芸術関係事業については、従来の形に捉われることなく、子どもたちへの機会創出、鑑賞型から体験型へのシフト、まちなかや地域へのアウトリーチなど、新たな取組みによる新しい層へのアプローチが着実に進められている。今後は、これまでの成果（人づくりなど）をまちづくりに活かしていく視点を持って、市民が活躍できる場を創出するなど、市民と行政が同じベクトルの下で協働して行っていくような取組みも併せて考えていきたい。 成岩公民館改築等事業については、公民館が地域交流施設へと移行する本市として試金石となる取組みであるが、地域住民との協議等を進めることができ、新施設建設に向けて遅滞なく進めることができた。 福祉文化会館更新事業については、当初の予定を一部見合わせるようになったが、実施した現況調査により、施設のあり方を検討していくうえで必要な情報を得ることができた。				
部等長	2次評価（令和6年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	音楽のあるまちづくり事業、文化芸術普及推進事業ともに、新たな視点の下で新たな層に働きかけていくための取組みが前進しており、より多くの人たちに文化芸術に興味・関心を持ってもらうための機会づくりが提供できている。一方、取組みの前進とは裏腹に、成果指標自体は減少しており、望むような形で結果が出ていない側面もある。指標の増加に向けて、アンケートの実施や情報収集に努め、次年度以降の改善を望む。 成岩公民館改築等事業については、滞りなく事業が進んでおり、新施設の建設や管理運営方法の検討等については市民協働課が主体的に進めることとなるが、これまでの公民館の機能や役割などを、新施設がどのように担っていくかなどの課題が残っているため、引き続き、部局を超えた横断的な連携が必要である。 福祉文化会館更新事業については、情勢の変化や考え方を整理する中で軌道修正する形となったが、次年度以降、ひいては今後のまちづくりを進めていくうえで参考となる情報を得ることができた。 総じて、上記事業の推進に当たっては、遠からず事業の推進がまちづくりや賑わい創出、市民の愛着や誇りの醸成等につながっているという視点も必要である。事業自体の実施や単にハードを整備するといった観点到留まることなく、高い視座を持って業務に取り組んでもらいたい。				